

令和4年産水稻現地指導会（1回目）資料

令和4年6月12日

JAしまね斐川地区本部 営農第一課

○令和4年産水稻の生育

1) 育苗

育苗期間は、全般的に気温が高く温度管理が難しい年となりました。

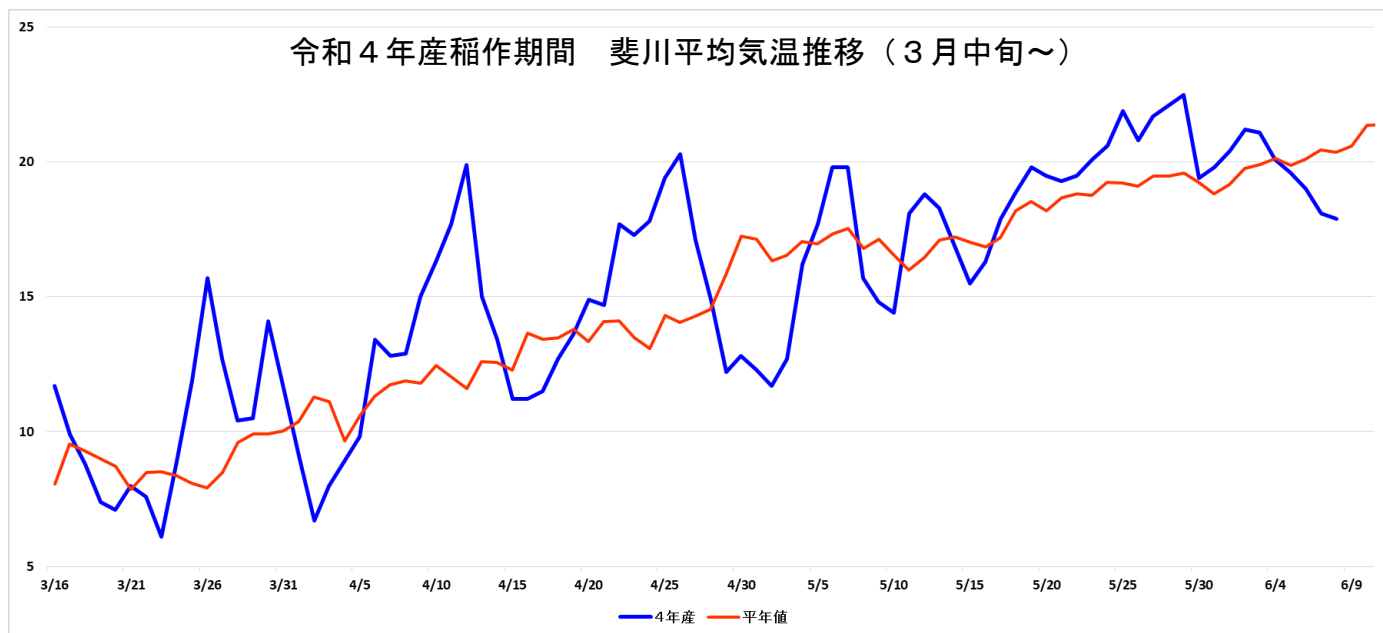
浸種中に発芽するケースや、ハウス内の高温多湿によりもみ枯細菌病の発生、苗の伸びが早く田植え作業の前倒しなどのトラブルが一部でありましたが、苗の生育は全般的に順調で平年と比べやや早い生育でした。

2) 本田生育

4月下旬から5月は全般的に**気温が高く、日照時間も多く**推移しました。**活着は良好**で、初期生育も平年と比べ**茎数が多く、草丈は短く**推移しました。今のところ日照も十分あったため葉幅も広くガッチリした稲の姿となっています。

また、気温の上昇とともに本田では**藻類、表層剥離**や一部**ワキ（ガス害）**が発生しているほ場があります。そのようなほ場では、**一旦落水・間断かん水**などにより、**ガス抜き・酸素供給**を行い、**根の健全化**を図りましょう。

ハナエチゼンは間もなく幼穂形成期、その他の品種では分けつ盛期となります。梅雨時期の管理となりますが、**水管理による分けつ促進**や**適期に中干しを実施**するなど、有効茎確保に努めましょう。



※データ観測地点：斐川 ※平年値：2003～2021年の斐川の平均

○生育調査結果

品種名	移植日	調査日	調査地点	株/坪 (株間)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	※葉色 (葉色板)	葉齢
ハナエチゼン	5/2	6/9 (+38)	出東	50 株 (21 cm)	24.0	381.0	35.3	41.6 (5.4)	7.9
つや姫	5/1	6/9 (+39)	出東	45 株 (24 cm)	17.3	240.3	30.1	37.7 (4.6)	7.1
つや姫	5/2	6/9 (+38)	伊波野	50 株 (21 cm)	14.2	225.7	31.4	44.0 (5.9)	8.3
つや姫	5/2	6/9 (+38)	出東	50 株 (21 cm)	10.7	169.5	32.3	37.5 (4.6)	8.4
コシヒカリ	5/14	6/9 (+26)	直江	50 株 (21 cm)	14.0	222.2	29.2	38.1 (4.7)	6.5
きぬむすめ	5/15	6/9 (+25)	荘原	60 株 (18 cm)	5.8	107.4	24.4	30.7 (3.2)	5.1
きぬむすめ	5/23	6/9 (+17)	出東	50 株 (21 cm)	5.6	88.9	13.8	31.5 (3.4)	4.1
きぬむすめ	5/25	6/9 (+15)	伊波野	50 株 (21 cm)	4.5	71.4	25.9	26.4 (2.4)	4.4

※葉緑素計による値: 平均値 × 0.2 - 2.9 = 葉色板の数値

【全品種共通】

田植後の天候にも恵まれ、生育は概ね順調。
日照時間も多かったことから茎数は多く、草丈は短い傾向。

【ハナエチゼン】

茎数を確認し、中干しを実施する。
葉色・幼穂を確認し、適期に穂肥を施用する。

【つや姫】

平年に比べ茎数は多く、葉色は濃い。ほ場によって藻類の発生が見受けられる。
茎数を確認して中干しを実施する。

【コシヒカリ】

平年に比べ茎数は多く、葉色は濃い。まもなく中干し時期となるので茎数を確認する。

【きぬむすめ】

これからの時期、茎数が増加してくるので中干しの時期を逃さないようにする。

①水管理編（コシヒカリ・つや姫・きぬむすめ）

平年と比較して気温の高い日が続き、**ワキ(ガス害)**による**下葉枯れ**や**藻類**、**表層剥離**が発生しているほ場が多く見受けられます。

今後は以下の点にご注意いただき適正な水管理を行いましょう。

○ワキ（土壌還元）対策

「ワキ」とは土壌の還元が進み、根の生育に有害なガスが発生している状態です。湛水状態で気温が高い日が続き降雨が少ない時に発生しやすくなります。対策として下表を参考に田の状況を確認し、根の健全化を図りましょう。

表：ワキの程度区分と対策

ワキの程度	田の状況	生育への影響	対策	
			分げつ初中期	分げつ盛期
稀	水田に足を踏み入れても気泡の発生無し	なし	-	-
少	水田に足を踏み込むとわずかに気泡の発生が見られる	なし	-	-
中	水田に足を踏み込むと気泡の発生が多い	根の活力低下	用水の入れ替え	用水の入れ替え
多	水田に足を踏み込むと盛んに気泡を発生する	根張り不良	軽い落水と用水の入れ替え	用水の入れ替えを繰り返し
甚	晴天時自然に気泡を発生し音が聞こえる。歩くと著しく気泡を発生	根の伸長阻害 地上部黄化	夜間落水	間断灌水 夜間落水

○藻類(アオミドロ)・表層剥離対策

近年、5月の気温が高いことから藻類(アオミドロ)の発生が見受けられます。

発生量が多いと、水温や地温の低下、苗のなぎ倒し等により初期生育を抑制することがあります。アオミドロは以下の条件が揃うと増殖する傾向にあります。

- ①地力が高い(土中の有機物や窒素、リン酸が多い場合に多発)
- ②水温が生育に適している(水温が20～25℃程度になると増殖する)
- ③日射量が多い(日照時間が長くなると光合成量が増加する)

↓ 対策

- ①一時的な間断かん水（水の入替え）により軽く干し土壌表面に落着かせる
- ②除草剤の土壌処理層が形成後された後は、浅水管理(2～3cm程度)とする
(深水にしていると藻類の発生密度が高まり苗のなぎ倒しの原因となる)
- ③発生量が多い場合は藻類(アオミドロ)に登録のある除草剤「モゲトン粒剤」を散布する
(注)モゲトン粒剤は、「つや姫」・「特別栽培米きぬむすめ」では1回のみ使用可能。

○中干し

中干しは、根の健全化と無効分げつを抑える大切な作業です。

特に本年は、田植後、気温が高く日照時間も多かったことから、**平年と比較して茎数が多い傾向**です。茎数を確認し、中干しの適期を逃さないように注意しましょう。

○中干し開始時期

コシヒカリ：茎数が17本/株

つや姫：茎数が18～20本/株

きぬむすめ：茎数が18～20本/株

5月上旬の田植え→目安：田植え後 40～45日

5月中旬以降の田植え→目安：田植え後 35～40日

～注意点～

中干しが早すぎると茎数不足による収量減・遅れると品質低下の原因となります。
田植え後の日数はあくまで目安です。実際の茎数をしっかり確認しましょう。
開始の適期は下表の品種別の目標穂数(有効茎数)の8～9割程度を目安とします。

植付け株数からみた品種別の平均1株目標穂数

株数/坪	60	50	45
コシヒカリ	19	22	25
つや姫	19	23	26
きぬむすめ	18	22	25

60株=18cm、50株=21cm、45株=24cm (2～3本植えとして)

○中干しの目安

	中干し期間	中干しの程度
排水が良好なほ場(図1)	5～7日	田面が軽くひび割れる程度
排水が悪いほ場(図2)	7～10日	田面が強くひび割れ、靴が汚れない程度

※降雨が続く場合は中干しを長めに実施する。

※基肥一発型肥料(OK有機入り一発、ツバメコートSLH20など)のほ場は
長期間の中干しは避けて下さい。(肥効が変化するため)

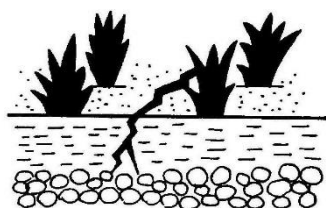
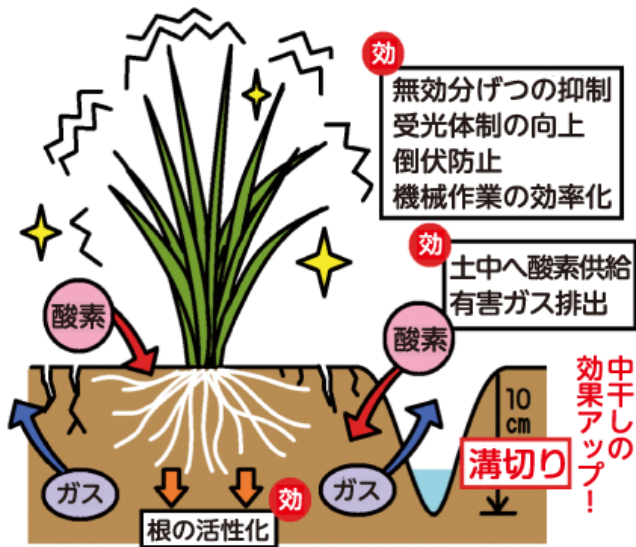


図1 排水が良好なほ場



図2 排水の悪いほ場



中干しの効果

○溝切り

中干しと溝切りの目的は、根の健全化をはじめ、無効分げつの抑制や、秋作業に向けた準備（生育後半の水管理、地耐力の向上）を行うことです。専用の付属品や機械が必要であり、手間のかかる作業ではありますが、一手間かけることにより今後の管理が容易となります。

○中干し終了後は間断かん水

中干し終了後、急激に入水させると根傷みの原因になりますので走り水を行ってから間断かん水を行って下さい。

間断かん水とは

水を浅く張る → 自然に減水 → 3日程度干す → 水を浅く張る

「ハナエチゼン」の今後の管理について

◆穂肥の施用(体系施肥)

1回目の穂肥は穂数・粒数を確保するために重要となります。

ハナエチゼンは生育中期に葉色が低下すると収量が低下しやすいため、葉色が薄い場合には幼穂長に関係なく早めに穂肥を施用して下さい。

肥料名	1回目（出穂25日前） 幼穂長が1～2mm	2回目 （1回目の7～10日後）
磷加安403	15kg	15kg

（平年の幼穂形成期：6月22日頃 出穂期：7月16日頃）

②残草対策

田植え後1ヵ月近く経過すると、気温・地温も上昇し一発除草剤を散布していても、ほ場によっては雑草が発生し始めます。

除草剤の効果が不安定になる要因としては、田植え後の豪雨によるオーバーフローや日常の水管理、ほ場の凹凸など様々です。また、昨年雑草が多発したほ場では、埋土種子や塊茎の密度が高く、雑草の発生が多くなる可能性があります。

田植時期に強風の日が多く、田植え同時処理等で除草剤散布後に水が偏り田面が露出したほ場は特に注意が必要です。

《町内で主に問題となる雑草》

ノビエ	ホタルイ	クログワイ	オモダカ	イボクサ	クサネム
					
一年生 イネ科 種子繁殖	一年生 カヤツグサ科 種子繁殖	多年生 カヤツグサ科 塊茎繁殖	多年生 オモダカ科 塊茎繁殖	一年生 ツユクサ科 種子繁殖	一年生 マメ科 種子繁殖

P-8、9に中後期除草剤一覧を掲載していますので、確認のうえ適期散布に努めましょう。

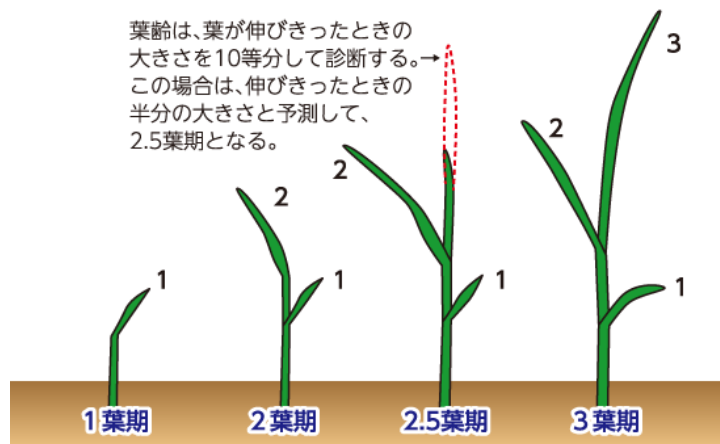


図 ノビエの葉齢の数え方



図 ノビエとイネの見分け方
(ポイント：葉耳・葉舌の有無 ヒエはない)



図 ホタルイとクログワイの見分け方
(ポイント：先端が尖っていればホタルイ)

③ケイ酸質資材の施用

ケイ酸は良食味生産するために、窒素とともに最も重要な要素です。収量増加や品質の向上に重要な役割となります。

ケイ酸質資材の期待できる効果

1.根の活力を高める	2.稲体を丈夫にする
3.光合成をサポートする	4.根張りが良くなる
5.乳白粒の軽減	6.タンパク質含有率の低下

施用時期：出穂前35～45日頃（6月中下旬～7月上旬）

施用量：けい酸加里・スーパーケイサン 20～30kg/10a

けい太くん 20kg/30a

- けい酸加里・・・可溶性珪酸を34%含み、稲体を硬く充実させる。
※溶けにくいいため、中干し前の施用が効果的
- スーパーケイサン・・・溶けやすい可溶性珪酸40%を含む。
※容量が15kg/袋となりますのでご注意ください。
- けい太くん・・・速効性のあるケイ酸質資材。水口施用で省力化できます。
(水溶性ケイ酸25%)

④病害虫防除

箱処理剤の施用によりイネミズゾウムシなどの初期害虫はある程度抑えられています。

いもち病は、初発が6月中旬～下旬となり、気象条件は低温・小雨・少照で発生します。

島根県での発病は6月中～下旬頃に置き苗が感染源となることが多くなっていますので、置き苗は早急に除去して下さい。

紋枯病は、茎数増加と高温多湿で発生します。特に①昨年多発したほ場②箱処理剤に紋枯病のないものを使用したほ場③過繁茂(特にきぬむすめ)のほ場では注意が必要です。

※「ルーチンエキスパート箱粒剤」「ルーチンブライト箱粒剤」には、いもち病・紋枯病に対する有効成分が含まれています。基本的には発生を抑制していますが、過剰生育・過繁茂状態になると発生を助長します。

斐川町一斉草刈運動の実施について

ウンカ・カメムシの生息する雑草地を一斉駆除します。

振興区・自治会一体となった取り組みをお願いいたします。

6月12日(日)～6月26日(日)の15日間

【農薬適用一覧（移植水稻）】

【除草剤】（中期剤）

薬剤名	適用雑草名	使用時期	使用量(10a)	本剤使用回数	成分数
ウィードコア 1キロ粒剤	一年生雑草、 キシウスズメノヒエ 多年生広葉雑草	移植後7日～ルビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	1kg	2回 以内	3
レブラス 1キロ粒剤	水田一年生雑草、 マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ、 ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、 クログワイ、コウキヤガラ、シスイ	移植後14日～ルビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	1kg	1回	4
レブラス ジャンボ	一年生雑草及び 多年生広葉雑草	移植後14日～ルビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	小包装(パック) 10個(400g)	1回	4

（後期除草剤）

ノビエ・キシウスズメノヒエ対策

薬剤名	適用雑草名	使用時期	使用量(10a)	本剤使用回数	成分数
クリンチャー 1キロ粒剤	ルビエ キシウスズメノヒエ アゼガヤ	移植後7日～ルビエ4葉期 但し、収穫30日前まで	1kg	2回 以内	1
		移植後25日～ルビエ5葉期 但し、収穫30日前まで	1.5kg		
クリンチャー ジャンボ	ルビエ キシウスズメノヒエ アゼガヤ	移植後7日～ルビエ4葉期 但し、収穫30日前まで	小包装(パック) 20個(1kg)	2回 以内	1
		移植後25日～ルビエ5葉期 但し、収穫30日前まで	小包装(パック) 30個(1.5kg)		
クリンチャーEW (展着剤加用)	ルビエ キシウスズメノヒエ アゼガヤ	移植後20日～ルビエ6葉期 但し、収穫30日前まで	薬量:100ml 希釈水量:25～100L	2回 以内	1
トドメMF1キロ粒剤	ルビエ、 キシウスズメノヒエ、 アゼガヤ	移植後14日～ルビエ5葉期まで 但し、収穫50日前まで	1kg	3回 以内	1
トドメMF乳剤 (展着剤は加用しない)	ルビエ、 キシウスズメノヒエ、 アゼガヤ	移植後14日～ルビエ7葉期まで 但し、収穫50日前まで	薬量:200ml 希釈水量:25～100L	2回 以内	1

イボクサ・クサネム対策

薬剤名	適用雑草名	使用時期	使用量(10a)	本剤使用回数	成分数
ノミニー液剤	クサネム	移植後30日～ クサネムの草丈40cmまで 但し、収穫60日前まで	薬量:50～100ml 希釈水量:100L	1回	1
	イボクサ	移植後30日～ イボクサの茎長30cmまで 但し、収穫60日前まで			

※落水散布またはごく浅く湛水して散布（3～4日間は入水させない）

※適用土壌：砂壤土～埴土

薬剤名	適用雑草名	使用時期	使用量(10a)	本剤使用回数	成分数
バサグラン粒剤	水田一年生雑草(イネ科を除く)、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ、ヘラオモダカ、オモダカ、クログワイ、エゾノサヤスカグサ、シズイ	移植後 15 日～55 日まで 但し、収穫 60 日前まで	3～4kg	1 回	1
バサグラン液剤	一年生雑草(イネ科を除く)、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、オモダカ、ミスガヤツリ、ヘラオモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、エゾノサヤスカグサ、シズイ、クサネム	移植後 15 日～55 日まで 但し、収穫 50 日前まで	薬量：500～700ml 希釈水量：70～100L	2 回以内	1
クリンチャーバス ME液剤 (展着剤は加用しない)	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ、ヘラオモダカ、オモダカ、セリ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ、キシュウスズメヒエ	移植後 15 日～ルビエ 5 葉期 但し、収穫 50 日前まで	薬量：1,000ml 希釈水量：70～100L	2 回以内	2
トドメバス MF液剤 (展着剤は加用しない)	一年生及び多年生雑草	移植後 15 日～ルビエ 6 葉期 但し、収穫 50 日前まで	薬量：1,000ml 希釈水量：70～100L	2 回以内	2

※落水散布またはごく浅く湛水して散布する。(3～4日間は入水させない)

藻類(アオミドロ・アミドロ)対策

薬剤名	適用雑草名	使用時期	使用量(10a)	本剤使用回数	成分数
モゲトン粒剤	藻類(アオミドロ、アミドロ)、ウキ草類	藻類、ウキ草類の発生始～発生盛期 但し、収穫 45 日前まで	2～3kg	3 回以内	1

※「つや姫」・「特別栽培米きぬむすめ」では1回のみ使用可能。

【「つや姫」の後期除草剤使用の注意点】(特別栽培米基準)

※後期除草剤は、クリンチャー(1kg粒剤・ジャンボ・EW)、バサグラン(粒剤・液剤)クリンチャーバスME液剤の中から**原則1剤を1回のみ使用**できます。
ただし、下記の組合せに限り2回の散布が可能です。

1回目	2回目
クリンチャー(粒・液・ジャンボ)	バサグラン(粒・液)
または	
バサグラン(粒・液)	クリンチャー(粒・液・ジャンボ)

【殺虫剤】

薬剤名	適用病害虫名	10a 当りの 使用量	使用時期 (収穫前)	使用 回数	成分 数
トレボン粒剤	イネミスゾウムシ、イネトロイムシ、 イネゾウムシ、イネヒハモグリバエ、 イナゴ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	2～3kg	21 日前まで	3 回 以内	1
	ニカメイチュウ第1世代	3kg			
トレボンEW	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、イナゴ類、 イネトロイムシ、カメムシ類、 イネミスゾウムシ、コブノメイガ	1,000 倍液を 60～150L	14 日前まで	3 回 以内	1
	ウンカ類、ツマグロヨコバイ	300 倍液を 25L			
トレボン粉剤DL	イネツトムシ	4kg	7 日前まで	3 回 以内	1
	カメムシ類、イネミスゾウムシ成虫 ツマグロヨコバイ、ウンカ類、コブノメイガ アザミウマ類、イナゴ類、イネトロイムシ ニカメイチュウ	3～4kg			
	イネヒハモグリバエ、フタオヒコヤガ	3kg			
なげこみトレボン	イネミスゾウムシ、イネトロイムシ	水溶性容器 4～6 個(200～300ml)	5 葉期以降 21 日前まで	3 回 以内	1
	ウンカ類、ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ第1世代	水溶性容器 10 個(500ml)			
	イナゴ類、イネクカメムシ	水溶性容器 6～10 個(300～500ml)			

農薬を使う前に、必ずラベル（使用時期、使用量、使用回数、使用方法）を必ず確認しましょう！！

後期除草剤の場合

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	使用回数	使用方法
移植 水稻	ノビエ、キシユウスズメ ノビエ、アゼガヤ	移植直後7日～ノビエ4葉期 但し、収穫30日前まで	1kg/10a	2回以内	湿水散布

対象となる雑草を散布前に確認
例えばクリンチャーの場合、
広葉雑草には効果はありません。

生えている雑草の大きさと使用時期を必ず確認。対象雑草の葉齢が超えていれば効果が劣ります。
収穫前日数を確認すること。後期除草剤では60日前までの使用時期になっている種類もあります。

お問合せ先

JAしまね 斐川地区本部 営農第一課

TEL：0853-73-9616

FAX：0853-73-9074